

東日本地区ティーボール大会規則

(リトルリーグ四関東連盟規則を使用致します)

2019年11月リトルリーグ北関東連盟

- | | | |
|----|---------|--|
| 1 | バ ッ ト | リトルリーグ公認の金属及び木製・金属ティーボール用バットとする。 |
| 2 | 使 用 球 | ゼット (Z E T T) 社製。 |
| 3 | 服 装 | 服装は自由(Tシャツ短パンも可)、背番号は1番からの連番とする。
背番号は四連盟指定のゼッケンを着用する。選手は1番から20番まで監督1名コーチ5名各名称入りのゼッケンを着用する。
監督・コーチの服装は同一でスポーティーなものとする。短パン不可、監督・コーチは専用ゼッケンを着用。 |
| 4 | チ ー ム | 小学校3年生以下の男女選手とし、ベンチ入りは20名以内で監督1名コーチ5名以内。 |
| 5 | 登 録 | 各連盟の登録用紙を使用し、大会本部に提出。 |
| 6 | 設 備 | 外野フェンス迄の距離は45m。バッターボックスは、ホームベースの半分(21.6センチ)捕手よりに移動して設ける。ピッチャーサークルは半径1m、塁間・コーチャースボックスはリトルグラウンドと同じ。ホームベースより7mにファウルラインを入れる。一塁ベースは、ダブルベースを使用する。 |
| 7 | 試 合 | 攻撃は3アウト制。

リーグ戦は、6回又は45分とし、同点の場合は引き分けとする。
1イニングで9人目の打者が打席に入ったときは、アウトカウントを2アウトとする。
シートノックは5分間。 |
| 8 | 大 会 | 試合開始前及び試合終了時の選手、監督、コーチの動作はリトルリーグと同一。
リーグ戦方式で行う。

①守備側コーチは守備選手にアドバイスの為2名以内が入れるが外野のみ。
②攻撃側コーチはコーチスボックスに入り自リーグ選手にアドバイスの為2名が入れる。

又、1名は球審の横で打者を指導すると同時に投手からの返球を受けて球審に手渡す。

又、バッティング時にバットを投げ捨てる選手が見受けられるので、危険防止の為絶対行わないように指導すること。コーチは過激な言動で指示をしないこと。 |
| 9 | 審 判 | 4人制とする。ホームでのプレーがある場合速やかにティーを排除すること。 |
| 10 | 安 全 | 捕手、走者はヘルメットを使用すること。ベンチには救急箱を用意し、選手の安全には万全の体制を整えておくこと。スポーツ保険には必ず加入のこと。
ベンチ内での素振りを禁止する。 |
| 11 | 応 急 処 置 | 主催者は大会中の負傷に応急処置を施すが、それ以上の責任は取らない。 |
| 12 | 競 技 方 法 | 1 競技者は9名。 背番号(ゼ ック)はバッター順とする。
2 守備選手9名が定位置に着いたのを確認し、球審が「プレイ」をコールすると同時に、投手は投げる動作を行う。投球動作が終了と同時にティー上のボールを打つ。この動作はフルスイングでなければならない。ハーフスイング・バントは認められない。
ティーにボールをセットするのは球審が行う。
3 打球の判定
①7mのファウルゾーンを越えた打球はフェアとする。
②ホームベースより7mのラインを引く。このラインを超えない打球はファウルボールとする。
上記の場合、打者がボールとティーを同時に打つことがあるが、打球が7mラインを越えたらセーフ及びアウト何れも打球として認める。
4 投手が投球姿勢に入ったら打者は、打撃姿勢を変えてはならない。
5 三振は無し。
6 走者は打者がボールを打つまで離塁出来ない。(赤いハンカチのルール適用)
7 ティーの高低の調整は攻撃側コーチが行う。
8 抗議は認められない。
9 攻撃側・守備側のタイム回数について回数制限はないが、極力かけないように努力すること。
10 ボールが内野にいる内野手に戻りプレイが一段落したら、審判はタイムを宣告してボールデッドとする。
11 ヘッドスライディングは禁止。
12 一塁のダブルベースは一つのベースとして扱う。従って野手及び打者走者はどちらに触塁してもかまわない。ただし、打球の判定は野手用(インフィールド内のベース)で行う。 |